



▲楽しいメロディと園児の歌声が響きました

草野・飯樋幼稚園のようす
今回で3回目となる白井先生の訪問。歌を歌いながら登場した白井先生に、園児も自然と笑みがこぼれました。幼稚園では、昨年の訪問の際に教えてもらった歌を毎朝歌うなどして、先生が作った歌に親しんでいます。
この日も、白井先生はピアノを弾いたり、手話を交えたりしながら園児に楽しい歌を披露し、「これからも歌を通して、周りの人たちに元気を与えてください」と優しく声をかけました。

歌の力を信じて。
2月17日、幼稚園と小学校で音楽専科教諭白井真先生（神戸市立西灘小学校）による歌を通じた特別授業が行われました。
白井先生は、1995年に発生した阪神・淡路大震災で自宅が全壊する被害に遭い、その直後に、「歌で街を勇気づけたい」と歌「しあわせ運べるように」を作りしました。この歌は神戸の小学校で歌い継がれており、神戸の人たちを約20年間励まし続けています。



▲復興を願う希望の歌が神戸から伝えられました

草野・飯樋・白石小学校のようす
小学校では4年生を対象に「いのちの授業」が開かれ、白井先生自身が被災した経験や、神戸の子どもたちのようすを、当時の映像を使いながら児童に説明しました。その中で、白井先生が歌に託した復興への願いが語られると、熱心に聞く児童の姿が多く見られました。
授業の最後には、児童が「しあわせ運べるように」の歌詞の「神戸」を「福島」に変えて、復興を願いながら歌い、特別授業の幕を閉じました。

しあわせ運べるように

作詞・作曲 白井真

地震にも負けない強い心を持って亡くなった方々のぶんも毎日を大切に生きてゆこう
傷ついた神戸を元の姿に戻そう
支えあう心と明日への希望を胸に響きわたればくたの歌
生まれ変わる神戸のまちに届けたいわたしたちの歌
しあわせ運べるように
国内外の被災地で、歌詞「神戸」を「ふるさと」などに変えて歌われ、被災者を勇気づけています。



▲震災後、継続的にご支援いただいています

ロータリークラブ 教材寄贈
2月8日、福島南ロータリークラブ（佐久間功会長）より、草野・飯樋・白石小学校と飯館中学校に実験教材等の寄贈がありました。同ロータリークラブからは、以前にも図書等をいただいています。
今回の寄贈にあたり佐久間会長から「子どもたちが希望した教材を贈ることができた。この教材を使って、充実した学習をして欲しい。村の子どもたちに対してこれからも支援を継続していきたい」と激励の言葉が贈られました。



▲子どもたちの大切な絵本が完成しました

今回、完成した5年生作「ほくのもり、わたしのもり」、6年生作「ひまわりの村」の2冊の絵本は、交流センター「ふれ愛館」や移動図書館こあら号で貸し出しを行っています。子どもたちの思いが詰まった絵本を、ぜひご一読ください。

**小学生と絵本作家いせさん
オリジナル絵本の完成！**



みんなの思いが絵本に！

2月7日、草野・飯樋・白石小学校に通う5・6年生と絵本作家・いせひでこさんが一緒に作った絵本が完成し、児童一人ひとりに手渡されました。
震災後、小学校では全児童を対象に、いせさんといせさんの夫で作家・柳田邦男さんによる絵画教室を行ってきました。この絵本は、今年の夏、5・6年生が描いた絵にいせさんが文を加えたものです。いせさんは「震災がきっかけで、特別な時間を過ごしてきた。言葉で表現できないことを描いた絵が形になってうれしい」と完成を喜びました。また、柳田さんからは、絵画教室を受ける児童の真剣な姿などを撮影した写真が、全学年に贈られました。

冬を楽しむ特別授業

2月、幼稚園と小学校がそれぞれ福島県内のスキー場で特別授業を開き、子どもたちが冬にしか体験できない授業を楽しみました。
8日に塩沢スキー場（二本松市）で行われた幼稚園の特別授業では、親子がそり遊びや雪をバケツに詰めて積み上げる雪タワー作りを競って楽しみました。また、10日には、あだたら高原スキー場（二本松市）で小学校の全校生徒を対象にしたスキー教室が行われ、インストラクターから滑り方や止まり方を学びました。



▲幼稚園の親子が雪タワー作りを楽しみました



▲小学生がスキーに挑戦！雪山の魅力を味わいました